

第6回おおいた建築セミナーin日田の報告 (公社)大分県建築士会日田支部

広報部長 秋 和夫

11月9日の午後2時より、マリエールオークパイン日田に於いて、第6回おおいた建築セミナーin日田が85名の参加で開催されました。



(開会宣言をする井上会長)



(祝辞を述べる村井副市長)



(挨拶をする野村大会会長)



(スケジュール説明をする櫻木実行委員長)

井上正文会長より開会の言葉を頂き、大会会長の野村晋二支部長が挨拶を行いました。日田大会のテーマは「淡窓さんとゆらめく千年のあかり」です。日田市出身で、江戸時代の儒学者である廣瀬淡窓が開設した日本最大級の私塾咸宜園は、身分を問わず誰でも入塾できました。そして、豆田地区には江戸時代以降に建てられた建造群が実在し、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されています。

この後行われる講演会と交流会スケジュールの説明を大会実行委員長の櫻木弘三郎青年部長が行いました。

大会終了後の講演会は、廣瀬資料館の中島龍磨館長をお迎えして、2部構成で行われました。

(第1部)淡窓の「心」や「教え」を今の暮らしに生かす～では、儒学者として打ち立てた独自思想「敬天」により積善の実践について説明がありました。

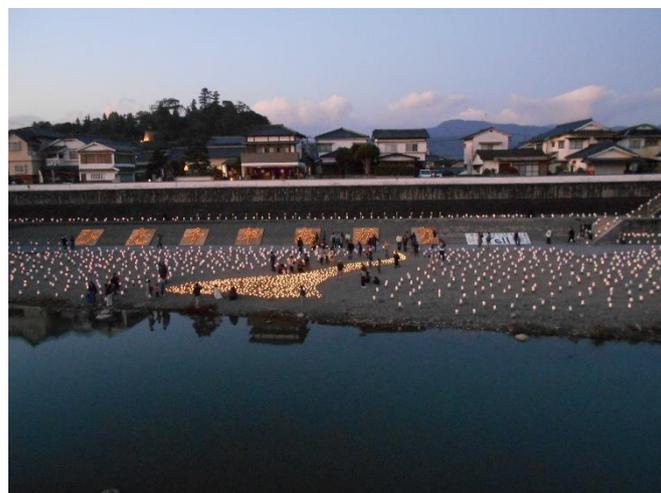


(第2部)久兵衛、ロマンを使命に変えて突き進む～では、病弱だった淡窓に代わり家督を継いだ久兵衛の生き方に話があり、廣瀬家を繁栄させ、日田の地を西国一の経済文化の中心地に導いた人生についてお話がありました。



幕末の時代に、戦火に巻き込まれそうになった天領の日田地区が、淡窓や久兵衛の教えによって救われ、古い街並みが残った経緯を聞き、日田で生まれ育った私が知らないことも多く、歴史の重さを感じることが出来ました。

講演会終了後の豆田まち歩きでは、メイン会場のすぐ近くで、第40回日田天領まつりと第15回千年あかりが開催されており、多くの災害や歴史に翻弄されながらも復興に向けて頑張っている天領日田を堪能していただけた事と思います。



(豆田町歩き 千年明かりの様子)

豆田まち歩きを終え、18時30分より、大会が行われたマリエールオークパイン日田を宴会場に変えて交流会が開催されました。

宴会の冒頭で、なでしこ会による祇園囃子演奏が行われました。



(日田祇園囃子なでしこ会の演奏)

宴会が進んで行き、8個の各テーブルでは久しぶりに会った人達で楽しそうな会話が行われていました。テーブルの名前は、日本の難読地名が多くある日田地区の名前が付けられており、宴会の最中に各テーブルにお邪魔して撮影しました。

以下は、各テーブルの様子です。



テーブル② 咸宜(かんぎ)



テーブル③ 月出山(かんとう)



テーブル① 一尺八寸(みおう)



テーブル④ 三春原(うらせばる)



テーブル⑤ 刃連(ゆきい)



テーブル⑧ 小鹿田(おんた)



テーブル⑥ 求来里(くくり)



テーブル⑦ 小寒水(おそうず)

気分も盛り上がった処で、アトラクションで余興の各支部対抗によるペーパータワー競技大会が実施されました。

開始前に作業始めるといった不正や酔った会員による妨害・・・?などの小さなトラブルがありましたが、何とか計測を行いました。



競技の結果は、以下のとおりです。

支部名	記録
大分	m 51 cm
臼杵	m cm
高田	1 m 56 cm
別府	1 m 55 cm
津久見	1 m 56 cm
佐賀関	m cm
佐伯 2	1 m 80 cm
玖珠 1	1 m 98 cm
中津 3	1 m 56 cm
宇佐	m 27 cm

(ペーパータワー競技大会の結果)



交流会の終盤には、次期開催の別府支部による挨拶が行われ、「楽しい大会にします!」と次の大会にも多数の参加要請がありました。



優勝した玖珠支部と最下位の大分支部ですが、結果にかかわらず、楽しんで戴けたみたいで笑顔の撮影でした。

(交流会場の様子)

マリエールオークパイン日田での懇親会を終え、宿泊場所の羽田多目的交流館は、日田市中心部より東へ車で約 20 分の静かな場所です。かつての羽田小学校が統廃合され、集会場では恒例の夜なべ談義です。羽田交流館の宿泊は、他支部から 23 名で日田支部会員 10 名が接待し、夜なべ談義は、21 時半から翌日の 0 時半過ぎまで語り合い、管理人より静かにするように注意を受けてしまうほど盛り上がりました。地域の皆様にはご迷惑をお掛け致しました。すみませんでした。



翌朝はみんな元気よく起き、朝 7 時からのランチルームで朝食を食べて、それぞれ各自で解散しました。



(羽田交流館の朝食メニュー)

最後に、会場責任者の後藤慎太郎副青年部長を筆頭に、残った支部会員 6 名で宿泊所の片付けと清掃を済ませ、管理人に確認を受けて羽田交流館を後にしました。運営委員の皆さんお疲れ様でした。

(広報部長 秋 和夫)